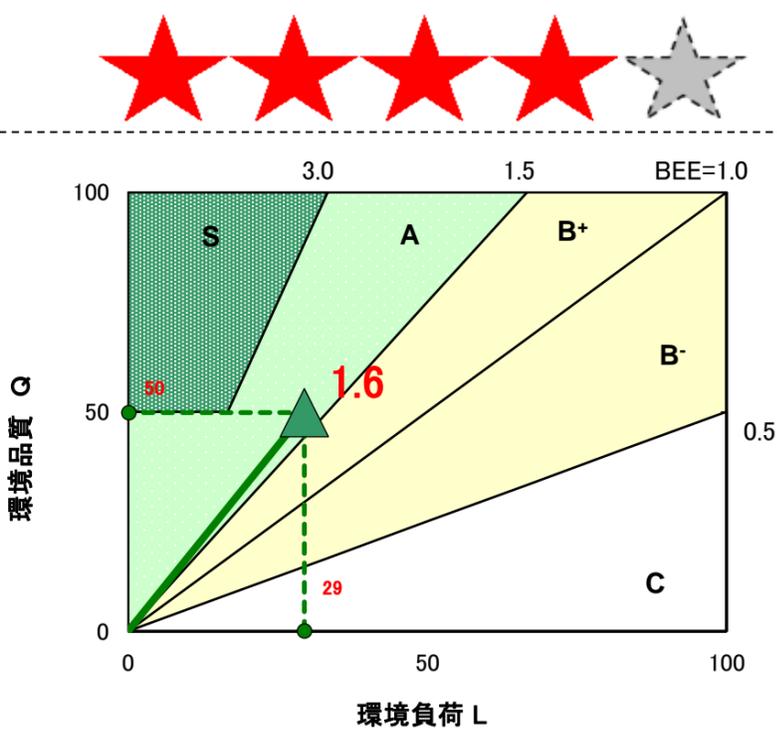


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)ダイワロイネットホテル熊本銀座通り	階数	地上13F		
建設地	熊本県熊本市中央区下通一丁目9番	構造	S造		
用途地域	商業地域、防火地域、駐車場整備地	平均居住人員	372 人		
気候区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	物販店、飲食店、ホテル、	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2021年11月 予定	評価の実施日	2020年7月10日		
敷地面積	1,273 m ²	作成者	東		
建築面積	696 m ²	確認日	2020年7月10日		
延床面積	7,828 m ²	確認者	上村		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 1.6

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

排出率

71%

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆



2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	99.7
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	68.7
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	93.0

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

評価点

87

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ダイワロイネットホテル熊本銀座通	階数	地上13F
建設地	熊本県熊本市中央区下通一丁目9番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域、駐車場整備地域	平均居住人員	372人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	物販店、飲食店、ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年11月 予定	評価の実施日	2020年7月10日
敷地面積	1,273 m ²	作成者	東
建築面積	696 m ²	確認日	2020年7月10日
延床面積	7,828 m ²	確認者	上村



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 71%
③上記+②以外の 71%
④上記+ 71%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 3.1
Q1 室内環境: 3.2
Q3 室外環境(敷地内): 2.5
LR1 エネルギー: 4.4
LR2 資源・マテリアル: 3.3
LR3 敷地外環境: 3.5

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.9**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.8**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価 **評価点 = 87**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全	重点事項4: 循環型社会の実現

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)ダイワロイネットホテル熊本銀座通り新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									2.9
Q1 室内環境					0.40		-		3.2
1 音環境				3.4	0.15	2.6	1.00		2.9
1.1 室内騒音レベル		【物販】一般商店50dB(A) 【飲食】食堂55dB(A) 【ホテル】宿泊40dB(A) 共用50dB(A)		3.1	0.40	4.0	0.40		
1.2 遮音				4.9	0.40	2.2	0.40		
1 開口部遮音性能		T-2採用		5.0	0.99	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能				1.0	0.01	1.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	1.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	1.0	0.20		
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境				3.3	0.35	3.7	1.00		3.5
2.1 室温制御				3.7	0.50	4.4	0.50		
1 室温		(共用部)夏期26°C、冬期22°C (宿泊部)夏期25°C、冬期:23°C		4.0	0.38	4.0	0.57		
2 外皮性能		【物販】【飲食】壁U:0.454、窓SC:0.47、窓U:2.50 【ホテル】壁:0.454、(宿泊部)窓SC:0.34、窓U:2.13 (共用部)窓SC:0.47、窓U:2.50		4.3	0.25	5.0	0.43		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.37	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境				3.3	0.25	2.6	1.00		2.9
3.1 昼光利用				4.1	0.32	1.8	0.30		
1 昼光率		(宿泊部)0.46% (共用部)6.50%		5.0	0.57	1.0	0.60		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.43	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				3.0	0.29	3.0	0.30		
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.14	3.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境				3.3	0.25	3.0	1.00		3.1
4.1 発生源対策				3.0	0.50	3.0	0.63		
1 化学汚染物質				3.0	1.00	3.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.30	3.0	0.38		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能				-	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				4.9	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.02	-	-		
2 喫煙の制御		喫煙スペースあり		5.0	0.98	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.1
1 機能性				3.4	0.40	3.4	1.00		3.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60		
1 広さ・収納性				-	-	3.0	0.50		
2 高度情報通信設備対応				-	-	3.0	0.50		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.9	0.30	4.0	0.40		
1 広さ感・景観		【物販】天井高2.8m 【飲食店】天井高3.0m 【ホテル】宿泊部:天井高2.5m		1.9	0.02	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.01	-	-		
3 内装計画		3項目該当		4.0	0.97	4.0	0.50		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		②塩ビシート③適度な水使用可④ホコリの溜まりにくい設計⑤風除室扉間:1.0m以上⑥一室で異なる床材の使用なし⑩錆び止め塗装		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	-	-		3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				4.0	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		タイル貼(40年)		5.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		タイルカーペット(20年)		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位3種にB以上を使用、Eは未使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.4	0.30	2.0	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.01	1.0	0.50	
1	階高のゆとり	【物販】4.15m【飲食店】4.15m【ホテル】3.07m	5.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	【物販】比率:0.25【飲食】比率:0.28【ホテル(宿泊部)】比率:0.18	4.0	0.40	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.01	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.4	0.97	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく更新・修繕できる	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく更新・修繕できる	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPI][BPI _m] = 0.85	4.5	0.20	-	-	4.5
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.66	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	BEMS導入	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		・IBフロアAN-SPタイプ ・メトロポリスⅡ ・エスリューム・マープル	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		・躯体と部材が容易に分別可能(軽量鉄骨下地) ・再利用できるユニット部材(フリーアクセスフロア)	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.20	-	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率:71%	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	・適切な量の駐輪スペースを確保 ・適切な量の駐車スペース確保 ・管理用車両の駐車施設の確保 ・導入路の位置・形状・数に配慮	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	・ごみの種類や量を推計 ・室内外にごみの分別回収の可能なストックスペースを計画 ・室内外にごみの分別回収容器・ボックス設置を計画 ・有価物の回収を計画	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	・光害対策ガイドラインを満たす・広告物照明の取扱いを満たす	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

周囲への建物の圧迫感を抑えるために、東道路側は境界よりセットバックした建物レイアウトとした。

Q1 室内環境

使用建材はF☆☆☆☆とし、化学物質汚染被害を防止した。
居室のサッシは断熱性の向上を図り、遮音性等級T-2以上を採用した。

Q2 サービス性能

将来の更新を想定し、全室ビニールクロスを採用した。
設備配管・危機についても維持管理・更新に配慮したパイプスペース、点検口の設置とした。

Q3 室外環境（敷地内）

外壁材の彩度を落としたデザインとし、周囲への太陽光の反射やグレアの軽減を図った。
機器の排熱に配慮し、設備機器は屋上設置とした。

LR1 エネルギー

高効率の照明、空調機器を採用し、省エネルギーに努めた。
複層ガラスを採用し、冷暖房負荷の低減に努めた。

LR2 資源・マテリアル

再利用できるユニット部材を使用した。
水資源保護に配慮して節水および雨水利用を採用した。
汚染物質含有材料の使用回避のため、有害物質を含まない材料を採用した。
電力消費を抑えるため、LED照明を多く採用した。

LR3 敷地外環境

周辺道路の交通負荷抑制のため、北側道路からは車の入庫のみの計画とした。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)ダイワロイネットホテル熊本銀座通り新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	87	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				99.7	0.40	39.88
Q1-2.1.2	外皮性能	4.3	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.5	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				68.7	0.20	13.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				93	0.20	18.60
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	4.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数